

実務経験者が“ロボット”を制作し RPAのスムーズかつ効率的な導入を実現

スチールプランテック株式会社

パソコン上で行う定型や反復などの単純作業をシナリオに基づいたソフトウェア(ロボット)が行い、業務効率化を図る仕組みがRPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)です。このRPA導入をIT部門主導ではなく現場主導、かつロボットの制作も現場で行い成果を上げたスチールプランテック株式会社に、その狙いと効果を聞きました。



写真左から、
鶴飼 夏子氏
(プラントエンジニアリング
本部 製鉄エンジニアリング
部 製鉄・石灰炉グループ)、
永嶋 千恵子氏
(調達部 機材グループ
主任部員)、
櫻井 まゆ氏
(企画部 経営企画室)、
藤森 典子氏
(管理部 人事総務室)、
広瀬 友行氏
(企画部 経営企画室
主任部員)

—御社の概要について教えてください。

広瀬：弊社は2001年にJFEエンジニアリング(旧NKK)、日立造船、住友重機械工業の製鉄プラント部門が統合、さらに2004年には川崎重工業の同部門も合流し誕生した製鉄プラントエンジニアリングメーカーです。事業内容は製鉄機械、アルミニウムなどの非鉄金属製造機械、これに関連する各種機械の企画設計、調達、製造、据付、試運転、保全など、導入からアフターサービスまで一手に引き受

けております。

—RPA導入のきっかけについて教えてください。

広瀬：2017年頃から業務プロセス改革の一つとしてRPAが注目を集め始めていました。これに当社の社長が目留めたのがきっかけです。

櫻井：弊社ではパソコンを使う作業の実務担当者の多くは女性で、作業内容を一番熟知しているのもそうした女性たちでした。そこで2018年に社内各部署から6名の実務担当者の女性が集められ、

「ロボガール」としてRPA導入に向けてのワーキンググループを作り、導入の手法などについて検討を重ねました。

「RPA化ありき」ではなく、 業務プロセスの 見える化から検討

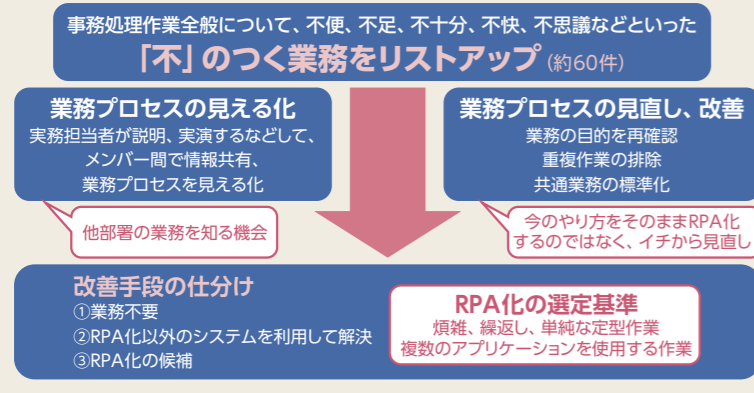
—多くの場合、こうした導入は社内IT部門が担うケースがほとんどだと思います。

永嶋：もちろん弊社でも、社内IT部門に頼む、もしくは社外のコンサルタントに依頼するなどの方法をとれば早いし簡単だったでしょう。でもそれでは現場にRPAのノウハウが身につかないと考えました。さらに自身が技術を習得すれば、社内に横展開してさらなる効率化を図れるという意図もありました。

櫻井：そうした技術が身につけば、新たな女性活躍の機会を生むことにもつながります。

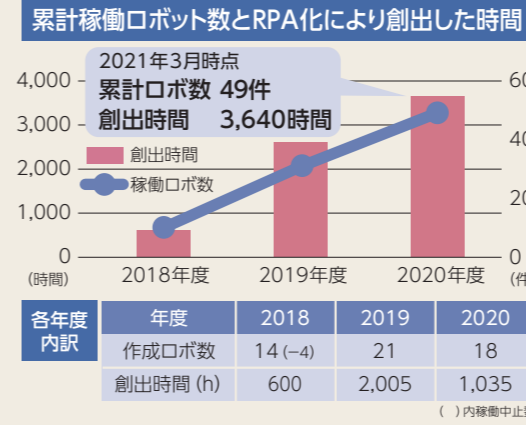
—RPA化する業務はどのように選

【図1：RPA化する業務選定のプロセス】



RPA導入当初のワーキンググループは毎週1回開催され、ミーティングののち、シナリオの作り方を学びながら、実際に作成していった。メンバーが増えた現在も、週1回、ロボット作成にかかわる担当者が集まり活動している。

【図2：RPA導入による成果】



2018年度の導入からこれまでに作られたロボットは49件で、累積で3,640時間が創出された。この時間数もさることながら、単純作業、反復作業がRPA化されたことで、担当者はストレスから解放され、かつ生まれた時間をより付加価値の高い業務に振り分けることができるようになり、従業員満足度と生産性の両方が向上している。

びましたか。

櫻井：「RPA化ありき」ではなく、まず各部署で担当する事務処理作業全般に対し「不便、不足、不十分」など「不」のつくものをリストアップし、それぞれの業務プロセスを見える化したのちに、どれがRPA化により「不の解決」ができるのかをワーキンググループとして検討しました(図1参照)。

速度と正確性が必要な作業、 目が離せない作業を RPA化し負担を軽減

—具体的にはどのような作業がRPAで行われ、どのような効果



「鉄子の部屋」トップ画面



「鉄子メール」

RPA導入時に作られたキャラクターが「鉄子」で、同社ではRPAを使った業務処理を「鉄子に仕事を頼む」と表現する。鉄子は独自のメールアドレスが与えられ、業務終了を各依頼者にメールで報告する機能も持つ。また社内ポータルサイトにある「鉄子の部屋」では、どのようなRPAが用意されているか、またその動作内容を示す動画が閲覧できる。

が得られたのでしょうか。

藤森：弊社ではかつて水曜日が「定時退業日」となっていたのですが、ある部門長から「所属内の部下の勤務終了時刻をまとめ、翌水曜日朝に報告してほしい」という依頼がありました。RPA化する前は二つの業務システムから手動でデータを抽出して結合し、表にしてメール送信するという作業を行っていましたが、朝の慌ただしい時間にまとめることがプレッシャーで、またちょっとした転記ミスも起こりがちでした。これをRPA化することで、正確なデータを作成し、届けることができるようになりました。

鶴飼：お客さまのプラント設備の操業データを遠隔収集し、データ解析を行う業務が昨年よりスタートしました。そのための事前処理とデータ解析プログラムの実行をRPAで行っています。24時間365日分のデータの事前処理は人の手による作業ではハードルが高かったでしょう。また、解析プログラムの結果を確認するためにパソコンのモニター画面をずっと監視することからも解放されました。

現場主導のRPA導入により 「RPA化するための手順」 という視点を共有

—RPAを現場主導で行ったことで、ほかにはどのよう

なメリットがありましたか。

櫻井：自身が担当する業務であることから、「負荷が大きいのでぜひRPA化したい」「ここは手作業でも問題ない」といった判断が的確にできたことです。またRPAについての知識が深まったことで、新たに導入する業務の流れを組み立てる時に「こういう手順にすればRPAができる」という視点が持てるようになりました。

永嶋：IT部門に頼むとしたら、内容により「これ頼んでもいいのだろうか」という迷いもあったでしょう。しかし自身で行うことで、簡単なもの、単純な作業でもRPAに落とし込むことができました。—今後の展望をお聞かせください。

櫻井：2018年度のRPA導入後、2020年度までに累計3,640時間が節約できました(図2参照)。RPAが業務に大きく貢献したといえます。ただこの時間数だけでは、単純作業から解放されたことによるストレス減は表に出てきていません。また時間だけでは、まだRPAの恩恵にあずかっていない社員にその有用性を理解してもらうことは困難だと思っています。RPA導入時から社内ポータルサイトに「鉄子の部屋」(P4左下画面写真)というページを設け、社内への周知を図っていますが、今年度はより積極的にRPA導入のメリットを社内全体に広報していきたいと思っています。



●会社概要
会社名：スチールプランテック株式会社
創業：2001年(平成13年)4月1日
本社所在地：神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-23 金子第2ビル4-9F
代表取締役社長：瀬 信之
資本金：19億9,500万円
事業内容：国内・海外向け製鉄機械、非鉄金属製造機械、コークス製造機械及びこれらに関連する設備の設計、製造、据付、販売ならびにアフターサービス
URL : <https://steelplantech.com/ja/>

ユーザ協会 D20005 検索

